

# 難波田城だより

2025 冬

106号

編集・発行

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース— NEWS from NANBATAJO

富士見市立難波田城資料館

令和7年12月1日発行

## 今号の内容

- 霞城の悲劇の駒姫
- みどころ紹介・長屋門展示室の「田舟」
- 縄ないをやってみよう
- 除隊記念の盃
- 冬のイベント予定

## 霞城の悲劇の駒姫

市民学芸員 園原 幸子



山形城南門跡

サイゲン・ジロ (https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Yamagata\_Castle\_minami-mon.JPG)、『Yamagata Castle minami-mon』、https://creativecommons.org/publicdomain/zero/1.0/legalcode



黒髪塚

Koda6029 (https://commons.wikimedia.org/wiki/ファイル:小姫の黒髪塚(専称寺)、https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/legalcode

私が10歳まで暮らしていた母の実家は、霞城（山形城）の外堀跡に建っています。そこから城の中心部の霞城公園は約2km離れています。このように霞城は東北一の大きな城です。

霞城は、最上氏の祖（斯波兼頼）が、延文2年（1357）に築城しました。その後、第11代城主最上義光によって整備されました。

今回紹介する話は、難波田氏が味方した北条氏が、豊臣氏に滅ぼされ（天正18年・1590）、豊臣氏が天下統一した少し後の話になります。

当時、最上義光の娘の駒姫は、「東国一の美少女」と称えられ、また教養も兼ね備えた姫でした。

秀吉の甥である秀次は、駒姫を側室に望みました。その時まだ駒姫は11歳と幼く、15歳になるのを待って上洛しました。

ところが上洛後間もない文禄4年（1595）年7月に、秀次が謀反の罪で切腹させられます。その3週間後、連座として妻妾や侍女、幼い子まで38人が処刑と決まりました。駒姫もその犠牲になりました。

この時点で駒姫はまだ、秀次とは対面もしていなかったと言う説もあります。

また父、義光は駒姫の助命嘆願を淀君を通じて行い、秀吉も翻意したが、時すでに遅し、処刑を止めることはできなかったという説もあります。

駒姫の母はその知らせを聞き、2週間後に亡くなってしまいます。

2人を失った最上義光は、恨みからか後の関ヶ原の戦いでは、東軍徳川方に加勢。会津の上杉景勝と戦い武功を挙げ、57万石の大名になります。

山形市の専称寺は、駒姫の菩提寺とされ、境内には、「黒髪塚」という駒姫の遺髪を収めたとされる塚が残っています。また昭和55年（1980）には、五輪供養塔が建立されるなど、駒姫の悲劇は今も語り継がれています。

【参考】武内涼『駒姫—三条河原異聞—』（新潮社） 山形市観光協会（https://www.kankou.yamagata.yamagata.jp/kenbunroku/）  
浄土真宗大谷派専称寺（https://www.senshojigakuen.jp/temple/）  
草の実堂（https://kusanonomido.com/）

## 市民学芸員のページ

\*このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。



田舟を使った稲刈り(水子地区 昭和60年頃)

生前の父の話では昭和30年頃までは4m位井戸を掘るとすぐに水が湧き出たそうです。南畠は戸時代中期までは「難波田」あるいは「難畠」と書く地名でした。

資料館に展示されている難波田城古絵図を見ても、城の周りは深田とか「フケダ」(深田)が多く、平城ながら難攻不落の城であったのではないかと想像してしまいます。

(渋谷 晃)

しかし、昭和30年代になると様々な農業機械が現れ、大変な人力作業から機械による効率的な作業に代わっていきました。例えば、耕運機が普及しはじめると「牛」は必要なくなり、どの農家からも牛がいなくなりました。私の実家でも昭和35年(1960)頃に牛を手放しました。稲刈りも「鎌」から「バインダー」という動力刈取機に変わり、今では乗用の「コンバイン」が一般的になりました。展示されている農具の中で、私が一番思い出深いものは「田舟」です。田舟は鎌で刈った稲を入れて田の中を移動するのに使いました。田舟を使って稲刈りをしている写真が展示されていますが、当時の私の家の田は膝下ぐらいまでズブズブと潜ってしまうので刈った稲を乗せる田舟は無くてはならない農具でした。田舟に稲をたくさん積み込むと重くて移動するのも一苦労でした。

## 難波田城 うよと拝見 みどりの紹介

### 古民家シリーズ④「田舟」(長屋門展示室 展示品)

旧鈴木家表門(市指定文化財)の一画を利用した長屋門展示室には、かつて市内の農家が使っていた農具が数多く展示されています。

私が生れた家は南畠の農家でした。子供の頃に家の手伝いをしたので展示してある農具は大変懐かしく、また大変だったことを思い出させてくれます。

しかし、昭和30年代になると様々な農業機械が現れ、大変な人力作業から機械による効率的な作業に代わっていきました。

田舟は鎌で刈った稲を入れて田の中を移動するのに使いました。田舟を使って稲刈りをしている写真が展示されていますが、当時の私の家の田は膝下ぐらいまでズブズブと潜ってしまうので刈った稲を乗せる田舟は無くてはならない農具でした。田舟に稲をたくさん積み込むと重くて移動するのも一苦労でした。

しかし始めてみると楽しそうに、しかも上手に仕上げてうれしそうに持ち帰りました。

小学校低学年では無理でも3年生になるとできます。むずかしいことはありません。

コツは手と手を合わせてわらに擦りをかけるときに、手のひらの小指側を使うこと。こうするとお子さんでもきれいな縄を作ることができます。

興味のあるかたは、どなたでもやってみてはいかがですか。

(野村 富雄)



## 人の創ったもの★人の使ったもの

### じょたいきねん さかずき 除隊記念の盃

明治6年(1873)から昭和20年(1945)まで、日本では富国強兵政策のもとに徴兵制が行われ、一般人も日清戦争や日露戦争、アジア・太平洋戦争等で、出征(兵士として戦地に赴くこと)を余儀なくされていました。厳しい訓練や戦いを乗り越えて兵役を終えた者は、入営や出征の際に餞別や見送りをしてくれた親族や近隣の知人たちに、返礼として除隊記念の盃や徳利などの記念品を贈っていました。

今回は当館所蔵の除隊記念盃について、紹介します。なお、除隊記念盃は現在開催中の令和7年秋季企画展(令和8年1月12日まで)で展示しています。

※本稿では、盃に記された文字について当時の用語としてそのまま掲載しています。

### 親族や知り合いに配られた盃

明治6年(1873)の徴兵令の発布により、17歳から40歳までの男性は兵籍に登録され、20歳で徴兵検査を受けました。その後、徴兵されると兵営に入り、軍隊の訓練を受け、戦争などの有事に出征をしました。しかし、兵士として一定期間を過ごすと、満期除隊となって故郷に帰ることができました。その際、送り出してくれた方々への御礼として除隊記念品を渡すのが、当時の慣例となっていました。記念品に選ばれる品のほとんどが盃や徳利の酒器で、軍隊の置かれた地域や故郷の陶磁器問屋に器種や図柄のほか、記す名前や部隊名などを添えて発注していました。

### 盃生産地の市之倉

古くからの陶磁器産地として有名な岐阜県東濃地域では、明治時代以降に除隊記念の酒器も生産しており、盃は市之倉(現・岐阜県多治見市市之倉町)、徳利は下石(現・岐阜県土岐市下石町)で焼かれていました。多治見の陶器商が、各地の陶磁器問屋からの除隊記念盃・徳利の注文を受け、市之倉や下石の窯屋(窯元)に発注していました。窯屋は器の成型と

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介します。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。



内面に軍帽や日章旗、錨、桜などが描かれた盃  
(凱旋記念や満期記念の文字が書かれている)

本焼きを行ったものを多治見の陶器商に納品します。そして、今度はその陶器商で図柄や部隊名、名前等の絵付けを行ったうえでもう一度焼成して、各地の陶磁器問屋へ納品していました。

### 除隊記念盃に描かれたもの

盃の図柄は、当時の軍や戦争に関する意匠がほとんどで、星章や日章旗、旭日旗のほか、陸軍を象徴する桜や海軍を象徴する錨などが描かれました。

また、絵柄とともにゴム印による絵付けをされた文字は、所属していた各部隊名のほか「除隊記念」や「凱旋記念」の文字が記されることが多く、「満州(支那)事変」などと記しているものも多くあります。

除隊記念品を贈る慣習は、日清戦争・日露戦争のころから始まり、その後盛んになっていきました。しかし一方でブームの熱を冷まそうと、除隊した兵士の組織である帝国在郷軍人会が除隊記念品の禁止を掲げたり、負担が大きいと大日本国防婦人会が記念品の廃止を呼びかける文書を出したりと、廃止を唱える運動が起こりました。

そして、昭和16~20年(1941~1945)のアジア・太平洋戦争の時代には、戦争による国内の物資不足と国による陶磁器生産の統制のため、急激に除隊記念盃の生産数は減り、終戦とともに除隊記念品としての盃や徳利等の生産は終焉を迎えるました。

(佐藤 一也)

### 【参考文献】

栗東歴史民俗博物館

『平和のいしづえ 2013』テーマ展パンフレット

## ＊＊冬のイベント予定＊＊

掲載したイベントは、都合により急遽中止・変更となる場合があります。最新の情報は資料館サイトでお確かめください。

### ●令和7年秋季企画展

#### 日常使いの近代『セトモノ』展 ～蔵に眠っていた食器～

瀬戸・東濃で焼成された近代の陶磁器(セトモノ)について器種や製作技法などに分類し展示しています。

会期／令和8年1月12日(祝)まで開催中

会場／特別展示室

#### ◆企画展展示解説

本企画展の担当学芸員が解説をします。

とき／12月6日(土) 午後2時～2時30分

会場／特別展示室 申込み／不要

### ●特別公開

#### 「鶴馬の地名にちなみむ掛け軸」

市内の旧家に伝えられてきた「鶴」と「馬」の絵の掛け軸3点を展示します。

会期／1月17日(土)～2月8日(日)

会場／資料館ホール

おうぎ

### ●扇だこ講習会(全2回)

かつて富士見市の特産品として知られた郷土民芸「扇だこ」を骨組みから絵付けまで2日間で作ります。

とき／12月6日(土)・7日(日)

午前10時30分～午後3時

指導／富士見市扇だこ保存会

持ち物／エプロン(前掛け)、昼食

にぎりばさみ(持っている方)

申込み／随時、電話か直接

定員／4人(中学生以上、申込順)

参加費／1,000円(材料代) 会場／講座室



### ●子ども書初め練習会

とき／12月21日(日)午後1時30分～3時

会場／講座室 対象／市内在住、在学の小中学生

定員／15人(申込順)

持ち物／書道セット、書初め用紙、お手本、新聞紙

申込み／12月2日(火)午前9時から電話で

指導／観友会

### ●消防訓練

とき／1月17日(土)午後1時～3時

詳しくは公式サイトをご覧下さい。

### ●古文書入門講座

市内に残された江戸時代の古文書を解読しながら、当時の歴史や文化を学びます(全3回)

とき／令和8年1月25日(日)、2月8日(日)、2月22日(日)の午後1時～3時 会場／講座室

講師／山野健一(当館職員) 定員／16名

参加費／無料 申込み／1月4日から電話か直接

### ●ふるさと体験「古民家で手作り味噌」

手作業の味噌づくりを体験し、自作の味噌(2kg分)を持ち帰ります。

とき／2月下旬 会場／旧金子家住宅

※詳細は今後広報「富士見」などでお知らせします。

### ●ちょっと蔵市

12月21日(日)つきたてのお餅

1月25日(日)まゆ玉だんご

2月はお休み

田舎まんじゅう販売  
第1.3日曜日 10:30～  
※12月21日はお休み

※11時より販売。売り切れ次第終了

※各イベントの詳細は広報「富士見」または資料館公式サイトを御覧下さい。

### ◆ちょっと蔵(売店)の営業情報

ちょっと蔵の営業は、年内は12月25日(木)まで、新年は1月10日(土)からです。また1,2月は土、日、祝のみの営業となります。

### 年末年始の休館のお知らせ

資料館と古民家は12月29日(月)から1月3日(土)まで休館です。公園は無休で、午前9時から午後5時まで開園しています。

#### お知らせ

「難波田城だより」のバックナンバー(カラー版)  
はこちらから

[https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi\\_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/nanbatajo-dayori.html](https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/nanbatajo-dayori.html)



資料館公式サイト



富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畠 568-1

TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

[https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi\\_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/index.html](https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/index.html)

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◆公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)